

VII-77

漂着ゴミによる海岸汚染（その1）

防衛大学校 正会員○山口晴幸

防衛大学校 小澤一隆

防衛大学校 斉藤和伸

著者らは、漂着ゴミによる海岸汚染の実態について、全国的な調査を継続し、その防止・処理対策について検討している。全国的に定点的な観測地点を設け、漂着ゴミの国籍判別や種類等について詳細な分析調査を試みている。本報告では平成10年8月に実施した沖縄本島と先島群島での16海岸（図-1）における漂着ゴミの調査結果について提示する。調査海岸地点は、図-1に示すように沖縄本島2箇所、石垣島2箇所、竹富島1箇所、西表島6箇所、波照間島1箇所、与那国島5箇所である。図-2にはこれらの海岸における漂着ゴミを外国製ゴミ、日本製ゴミ、不明ゴミの個数で区分している。南の島々における漂着ゴミの大きな特徴は、日本製ゴミ数に比較して外国製ゴミ数の多い海岸がほとんどであることである。各島ごとでまとめた図-3によると、沖縄本島以外では、外国製ゴミ数が20~30%台で、日本製ゴミの10%台以下に比較して2~6倍に達している。不明ゴミが50%を占めているが、この中にもかなりの割合で外国製ゴミが含まれている可能性があり、外国製ゴミの国籍を見ると、50~70%台が中国製ゴミで、10~20%台が韓国製ゴミが占めている。また漂着ゴミを種類別に区分した図-5と6によると、総ゴミ数の60~70%台がプラスチック類で、沖縄本島では缶類が25%を占めているが、概ねビン類が10%台、缶類と漁具類が10%台以下となっている。外国製ゴミの場合には、80~90%がプラスチック類となっている。これは遠距離漂流しやすいためである。

（参考文献）

- 1) 山口（1998）：大量の漂着ゴミ日本列島の海岸線を襲う、生活と環境、平成10年9月号、（財）日本環境衛生センター、pp.33-41.
- 2) 山口（1998）：外国から漂着するゴミによる海岸汚染、土木学会誌、第83巻3号、pp.60~62.

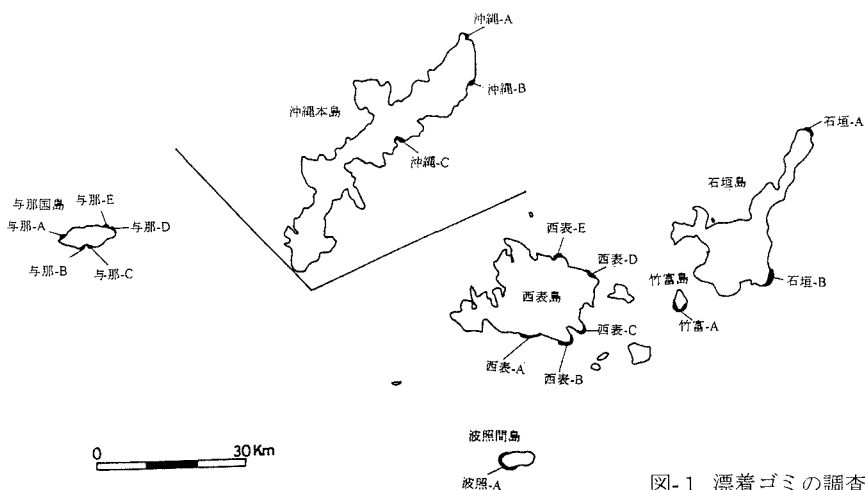


図-1 漂着ゴミの調査地点

キーワード：漂着ゴミ／外国製ゴミ／日本製ゴミ／不明ゴミ／海岸汚染／海岸保全

〒239-8686 横須賀市走水 1-10-20、TEL：0468-41-3810、FAX：0468-44-5913

土木学会第54回年次学術講演会（平成11年 9月）

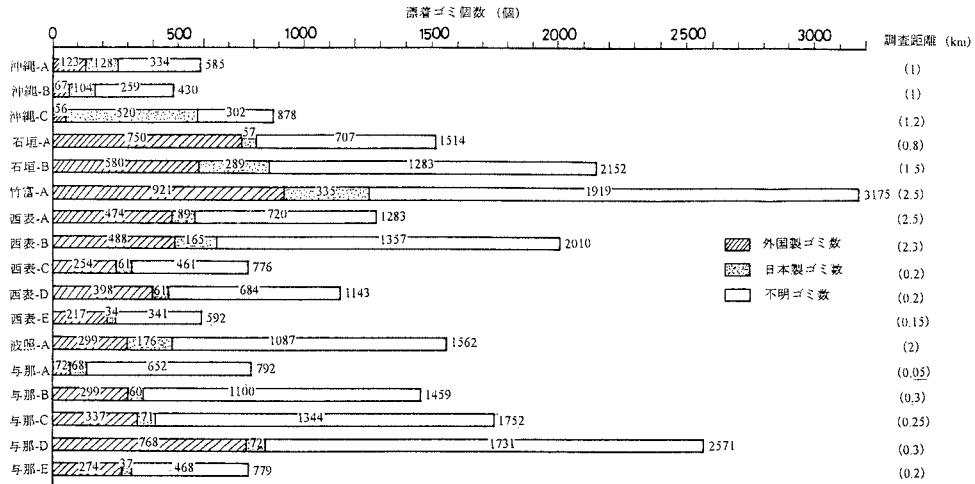


図-2 漂着ゴミの実態

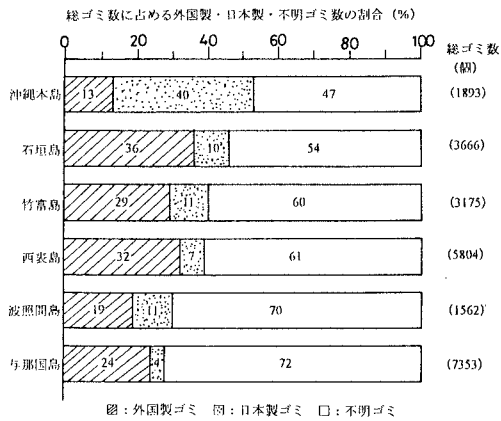


図-3 漂着ゴミの区分

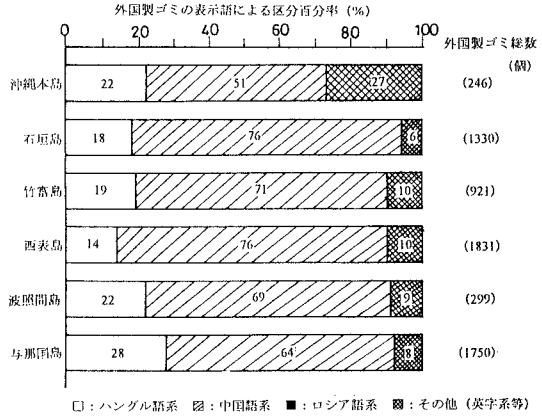


図-4 外国製ゴミの区分

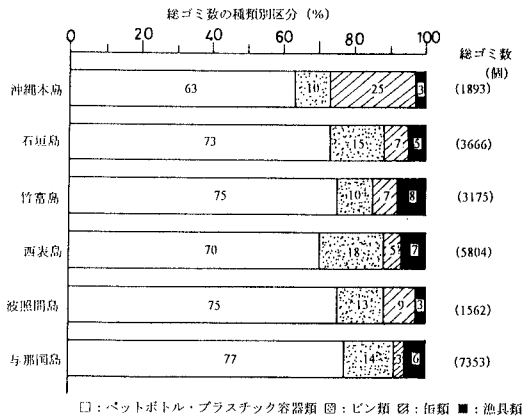


図-5 漂着ゴミの種類

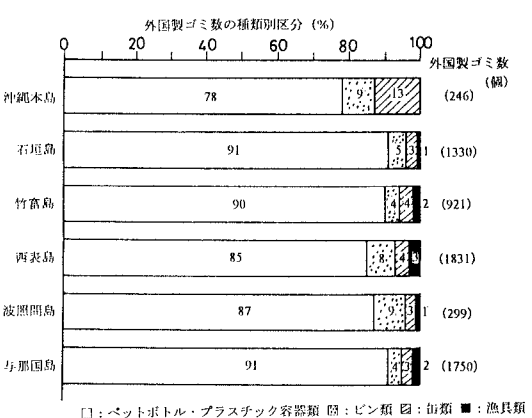


図-6 外国製ゴミの種類